



平成16年10月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	35,124,960 万円	100.0%	103.3%(102.4%)	32,950,442 万円	99.2%(98.2%)
食 料 品	28,088,754 万円	80.0%(81.3%)	104.7%(102.9%)	26,346,000 万円	100.4%(98.7%)
農 産	4,306,532 万円	12.3%(12.2%)	109.2%(102.3%)	4,034,760 万円	104.4%(98.0%)
水 産	3,161,026 万円	9.0%(9.2%)	99.6%(99.5%)	2,958,997 万円	95.4%(95.2%)
畜 産	3,235,481 万円	9.2%(9.1%)	104.0%(103.6%)	3,017,460 万円	99.3%(99.0%)
惣 菜	2,599,614 万円	7.4%(7.7%)	105.8%(104.6%)	2,424,174 万円	101.0%(99.8%)
日配食品	6,700,661 万円	19.1%(19.3%)	104.5%(102.5%)	6,283,032 万円	100.3%(98.4%)
加工食品	8,085,440 万円	23.0%(23.8%)	104.5%(104.2%)	7,627,577 万円	100.8%(100.3%)
生活関連	2,958,142 万円	8.4%(8.2%)	98.2%(98.7%)	2,777,765 万円	95.7%(95.1%)
衣 料 品	2,043,612 万円	5.8%(4.7%)	91.0%(96.5%)	1,945,955 万円	89.0%(94.5%)
そ の 他	2,034,452 万円	5.8%(5.7%)	107.0%(105.1%)	1,880,722 万円	99.8%(99.0%)

数 値

全店総売上高	35,124,960.0 万円	店 舗 数	3,304 店舗
総売場面積	5,749,975.6 m ²	総従業員数	162,753 人

店舗平均月商	10,631.0 万円	平均客単価	1,935.2 円
月間m ² 売上(前月)	6.1 万円(6.0 万円)	平均店舗面積	1740.3 m ²
月間坪売上(前月)	20.2 万円(19.7 万円)	パート比率(前月)	74.0%(74.3%)

注) 総従業員数...パート・アルバイト数は、8時間換算しています

全体概況

- ・ 昨年よりも土日ともに1日増であったが、地震・台風などの天災に見舞われたことも大きく影響し、売上は昨年に届かなかった
- ・ 台風の影響による野菜の相場高騰は、農産部門だけでなく、関連する各部門にまで大きく影響を及ぼしている
- ・ 平年に比べ気温が高いことと、野菜の相場高が重なり、鍋物商材は各部門とも伸びを欠いた
- ・ 台風・地震と続いたことから、水、インスタントラーメンなどの防災関連商品の売れ行きが好調であった

商品動向

農産

- ・ 葉物野菜の相場が高騰し、各社とも対応に苦慮する。単価が大幅に上がったため売上は伸びたものの、利益面では非常に苦しい月となった
- ・ 果物は、極早生みかんが昨比100～130%と好調に推移した。反面、柿、りんごはばら売りによる訴求をしたものの伸び悩んだ

水産

- ・ 台風の影響により水揚げが不安定になり、全般的に相場が高く苦戦した
- ・ さば、ぶりは入荷も早く、価格も安定していたため好調な売上となった

畜産

- ・ 葉物野菜の高値により、すき焼き商材から、カレー、シチューへ売上がシフトした
- ・ 牛肉の相場は依然として高く、値ごろ感が出せない状況となっている。反面、豚肉は相場が落ち着き、売上も好調に推移した

惣菜

- ・ 米飯は引き続き好調を維持している。各社ともアイテム数を増やすなど、拡販している
- ・ 少量目の商品の動きが良い。特に和惣菜が好調な売れ行きとなっている

日配・加工食品

- ・ 日配食品は、牛乳、ヨーグルトが伸びず、乳製品は苦しい状況だが、豆乳は引き続き好調を維持している
- ・ おでん商材は、気温が高い日が続いたこともあり動向は鈍かった
- ・ 野菜高騰の影響からか、野菜ジュースの売れ行きが軒並み好調となっている
- ・ たまごは、相場高から特殊卵の売れ行きが伸び、全体的な売上も好調であった
- ・ 加工食品は、気温が高かったことと、野菜の高騰が重なり、鍋つゆ、ポン酢などの売れ行きが不調であった。反面、乾物の売れ行きが好調であった
- ・ 酢、大豆、カテキンなど、健康・美容を前面に出した商品は引き続き好調に推移している

その他

- ～野菜の相場高について
- ・ 大根、白菜、レタス、キャベツなどは、値段が2倍から3倍にまで高騰した
- ・ 販売数量では60～80%であったが、金額では100%をこえるという異常な状況となった
- ・ 各社とも1/4、1/8などに分ける、カットサラダを強化するなどして、手の届く値段で提供できるよう苦慮している
- ・ 代わりに、もやし、冷凍野菜、浅漬け、野菜ジュース、輸入野菜などが代替需要によって、大きく売上を伸ばした
- ・ 原価に近い値段で販売した企業も多く、利益面に関しては非常に厳しい月となった

～秋の新商品・新米の動向について

- ・ 新商品は、花王ヘルシア、味の素サラリアなど健康に特化した商品が好調に推移している
- ・ 爆発的にヒットした商品は無いが、チョコレート、飲料などはほぼ堅調な売れ行きとなっている。ただし、単品では企業・店によって売れ行きに大きなばらつきがでている
- ・ 新米は、昨年の高値傾向から打って変わり、安値で推移している。販売数量は約10%ほど昨年より増えているが、それ以上に単価が落ち、売上は伸び悩んだ
- ・ 単価アップのため、各社とも単一銘柄の売り込みに力を入れている

～牛肉トレーサビリティ法への対応について

- ・ システム投資、人件費ともに企業の負担は大きく、企業の規模、対応の仕方によっては億単位の費用が発生している
- ・ マニュアル、Q & Aの作成や、従業員への周知徹底、オペレーションの再構築など、おもてに現れないところでも非常に手間がかかっている
- ・ 表示ミスは企業の存亡にかかわる問題になりかねないという認識が定着してきたこともあり、間違えの起きない仕組みづくりに各社非常に留意し、苦慮している
- ・ 法律自体を知らないお客様も多く、すでに実施している企業においても問い合わせはほとんど無い